



失敗から学ぶ

終わってしまえばいつもあつという間の夏休み。子どもたちはどの様に夏休みを過ごしてきたでしょうか。1学期の終業式には、「夏休みはいろいろと指示を出してくれる先生は近くにはいません。お家の人もいない時間もあるでしょう。そんなときは、これまでの勉強してきたことを生かして、自分自身で、今何をすべきか考えて行動してみましょう。“自分のことを自分で決めて、実際にやってみる”そんな勉強をする機会にしてください。」と子どもたちに話しました。それぞれの学年でできることは違うとは思いますが、どの子もきつとがんばろうとしてくれたと信じています。

振り返って、私自身の夏休みはどうだったかという、娘が受験勉強真っ最中のため、家族旅行へは行けず、塾への送り迎え、子どもたちの食事の準備、犬のお世話、その他の家事に従事していました。この中でも食事の準備については、普段あまりやっていないので、初心者そのもので、インターネットで検索しながら、レシピを見て作っていました。まず、何が食べたいのか、子どもたちにリサーチをしたり、自分から提案したりして作る料理を決め、レシピを見て必要な食材を確認後、冷蔵庫にある食材を調べて、足りない食材をピックアップし近くのスーパーまで買い出しに。2人分で記載されているレシピの分量を3人分に変換しながら調理開始。一つ一つの手順をレシピを見ながら進めるのですが、レシピの読み取りが十分にできず、常に戸惑いながら毎回何とか作り上げる感じでした。やっとの思いで作った料理も、レシピ通りやっているのに、味が濃かったり、薄かったり、硬かったり、柔らかすぎたり、失敗ばかりで、自分は料理が苦手なのかなと、がっかりすることばかりでした。しかし、夏休み後半になると、包丁遣いも手慣れて、材料の切り方に気を付けたり、味見をしながら調味料の分量を調整したり、少しずつ腕を上げることができ、娘から「今日の料理おいしかったからまた作って!」と言われるまでに成長することができました。この経験を通して、普段からがんばってくれている妻への感謝の思いが強くなると共に、学校で進めている「生きる力の育成」を、身をもって体験することができたのではないかと感じました。ちなみに1番うまくいったのはカレーピラフです。

この経験から学んだことは、人はいくつになっても「失敗から学べる」ということ。それから、問題解決型の学習は確実に「生きる力につながる」ということです。自分のこの経験を2学期の始業式で子どもたちに伝え、「失敗から多くのことを学ぶ」ことを、この2学期たくさん経験してほしいと話しました。2学期も子どもたちのさらなる成長のために、保護者の皆様と力を合わせて進めてきたいと思いません。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

新しく着任する教員の紹介と担当の変更についてのお知らせ

・図工専科の佐藤深花教諭が懐妊し10月22日より産休に入ることとなりました。代替え教員として、茂木麗奈教諭が2年生以上の図工を担当いたします。なお、9月1日より10月20日までは、茂木教諭はティームティーチングとして、佐藤教諭と共に図工の授業に入ります。

・算数少人数指導を担当している高橋優佳教諭が時間講師から臨時的任用教員へ任用が変更になったため、これまで担当していた、2年生の音楽を江尻明美教諭が担当し、4年1組の外国語活動を大和田未来教諭が担当することとなりました。